



萩のホテルにて

”還暦”祝い！

昭和31年生まれの私は、今年60歳の還暦を迎えます。本社で経理をしている家内も同級生ですので、子供たちが私たち夫婦の還暦祝いをしてくれました。本当に年々年を取るのが早くなり、50才を過ぎてからはあれよあれよと言う間の60才。45歳で社長を引き継ぎ、皆の頑張りで社業も何とかここまでやって来ることができましたし、3年前には創業者の父も見送ることができました。

多くの同級生は今年定年を迎え、楽しい余生を迎えるようですが、私はもう暫く社員共々皆様により良いサービスができるよう頑張りますので、ご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。

写真は、長男家族・次男家族+三男との集合写真です。(啓)

*** イベント情報 ***

廿日市リフォームフェア

日程：9月3日(土)・4日(日)

会場：廿日市商工保険会館

恒例、春秋に開催するリフォームフェアです。最新のシステムキッチンなどの展示と冒頭に書きました、熊本地震の報告を併せた「耐震セミナー」皆様からのご相談の多い「外壁塗装替えセミナー」を行います。

詳しくは同封のチラシをご覧ください。

スタッフ一同皆様のお越しをお待ちしております！！



宮本廿日市店店長

たくさんのご来場有難うございました！



廿日市店手打ちそばに並ぶお客様

5月の大竹店リニューアルイベント、そして6月には廿日市店10周年イベント、さらに7月には大竹店リニューアルイベント第2弾と続けてイベントを行いました。本当にたくさんのお客様にお越しいただき有難うございました。紙面からですが、深く感謝申し上げます。廿日市店のイベントでは、大竹のイベントに続いて宮園そば打ち同好会の皆様にご協力いただき、地元では大変知られた同好会ですので、美味しいそばを食べに地元の皆様がたくさんお越しいただき、左の写真のように列ができるほどでした。何と、廿日市店は二日間で120組200名ものお客様が来られ、10年と言う年月の重みを改めて実感した次第です。これからも、皆様に喜ばれるイベントを行いますので、お気軽にお越しください。(啓)

「住いの困った」は ゲインンハウス 大竹店・廿日市店共に

フリーダイヤル0120-505-375 URL:<http://www.geinan-house.co.jp/>最後までお読みいただき有難うございました、次回は10月の予定です。(啓)

*尚、この「住いる通信」がご不要の方はご一報願ひます。送付を停止いたします。



熊本地震より

いやー暑い日が続きますね～、原稿を書いているのはお盆前の夏真っ盛り。先日、20年ぶりに孫たちと海で泳ぎましたら、いやはや海水のしょっぱい事。長く海で泳いでいないと、海のしょっぱさも忘れてしまうんですかね？時には童心に帰って夏を楽しまんといけんですね！

さて、上の写真は熊本の地震で倒壊した住宅です。かねてから現地を見てみたいと思いつつ、なかなか行けませんでした。先月7月20日に私・廿日市店長宮本・河野(大)の3人で現地視察に行きまして。日帰りで行きましたので、時間に余裕はありませんでしたが、被害の大きかった益城町の木山地区を歩いて倒壊した現場を視察しました。築年数の古い建物は構造の耐力が少ないことから、無残にも破壊されたように倒壊しておりました。一番目を引いたのは、築20年～30年程度で一階部分が倒壊し二階部分のみ残っている住宅で、この地域でも多くの方がこの一階部分の倒壊によって亡くなられたようです。1980年以降の耐震基準でも実際に倒壊した家屋を目の当たりにすると、この仕事に携わる者として、国が進めている1980年以前の建物だけでなく、築浅の新しい住宅でもキッチンと耐震をチェックし、現在危険性の高いと言われている南海トラフ地震に対して備えるべく、声を発しなければと思っています。

本社の新社屋ができて早いもので2カ月が経ちます。地元の集まりなどで、たくさんの方々から「会社きれいになったね！」「看板も今風で、お洒落になったね！」などとお褒めの言葉をいただき大変嬉しく思っています。もう一つ嬉しいことは、改装後”飛び込みのお客様”が増えてきたことです。これまで全くお付き合いの無かったお客様が、住まいの事で色んなご相談に来ていただくようになりました。これまで、地域の方には知っていただいていると思っていたのは、全くもって勝手な思い込みであったことが分かりました。これまで以上に、ゲインンハウスの良い所をしっかりとアピールして行かなくてはと反省です。(啓)

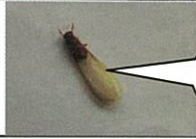


河野



シロアリの被害が身近に起こっています ”最近のシロアリ情報”

現場で河野君が撮影したイエシロアリ



毎年、5月に入ると「羽アリが出たんですが……」との電話が入ります。今年も、数件のお電話をいただき、専門業者が床下に入り確認・駆除を行っております。ほとんどのお宅が一般的な”ヤマトシロアリ”なのですが、先日廿日市のお宅で確認されたのが”イエシロアリ”です。この”イエシロアリ”は”ヤマトシロアリ”と比べると少々厄介なシロアリですので、どんなシロアリなのか、ご一読ください。(啓)

①なぜイエシロアリは厄介か？

ただでさえシロアリは厄介なのに、イエシロアリは厄介とはどういう事かと言うと、一般的なヤマトシロアリに比べると、蟻害の程度が大きく、そして進行が速いと言う事。さらに、このシロアリは床付近の湿った部位だけでなく、乾燥した高い所の梁なども食害してしまうからです。しかも、巢の規模が大きく、そのために食害のスピードも速いため、被害が拡大してしまうと言う厄介なシロアリなのです。

②ヤマトシロアリとイエシロアリの見分け方(羽アリの状態)

では、見分け方を見てみましょう。シロアリの状態は目につかない場所に潜んでいますので、5~6月に出てくる羽アリの状態での見分け方です。

イエシロアリ



体長: 7.5mm~9.5mm
体の色: 黄色身を帯びた褐色
羽の長さ: 9.5mm~12.5mm
飛来時期: 6月~7月夕方から夜にかけて

ヤマトシロアリ



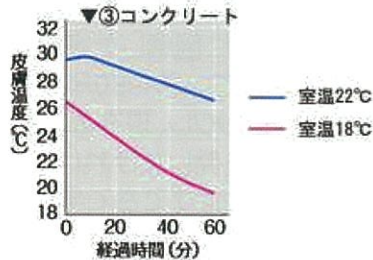
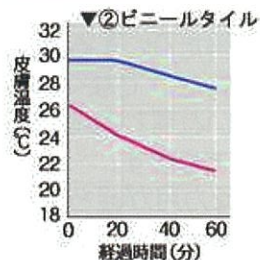
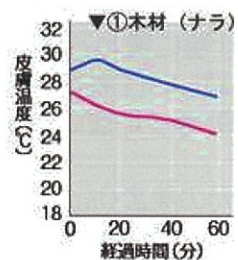
体長: 4.5mm~7.5mm
体の色: 黒っぽい
羽の長さ: 7.0mm~7.4mm
飛来時期: 4月~5月昼間に飛ぶ

イエシロアリはヤマトシロアリよりも一回り大きく、性質も攻撃的だそうです。万が一イエシロアリの場合は駆除が急がれますので、羽アリを見たらまずはチェックですね！(啓)

木の家を科学する②

今回のテーマは

「足を冷やさない木の秘密」



コンクリートの床の上で立っていると体が冷えてしまったり、疲れてしまったと言う経験はありませんか？そこで、上のグラフは室温が22°Cと18°Cの時の①木材(ナラ)②ビニールタイル③コンクリートと言う、異なった床での足の甲での温度低下をグラフにしたものです。室温22°Cではあまり差はありませんが、18°Cでは随分と差があり木材が下がりにくいことがわかります。つまり、木材は熱伝導率が低いので熱が伝わりにくく、熱を奪われず足が冷えないと言う事です。

熊本地震 ”木造住宅被害” 調査報告から。

冒頭に書きました熊本地震の視察に先駆けて、専門家による熊本地震による木造住宅被害調査報告を聞いて参りました。特に今回の熊本地震では、現行の建築基準法によって建てられた建物が多く倒壊した原因を聞き、これまでの耐震補強のレベルを上げなくては安心できない事を痛感しました。その原因は専門的なこととなりますので、簡単にご説明いたしますが、役所が耐震建物として補助金対象外としている1980年以降の建物でも、キッチリと耐震診断を行い、住まいの安全性を確認し対策を取る事が命を守る事だと、改めて痛感しています。(啓)

木造住宅倒壊の原因

①冒頭にも書きましたが「大規模な地震動」が複数回発生(28時間以内に震度7が2回、震度6強が1回)

熊本県益城町における全壊棟数は前震の直後では10棟と報告されているが、本震の後では2,309棟と報告されている。このことから、前震直後には被害も少なかったが、本震により全壊棟数が大幅に増加したと推測できる。

②地震動周期(1~2秒)の継続時間が長かった

この周期の地震動は、木造住宅に大きな被害を及ぼす。阪神淡路の震災(最大震度7)でもこの1~2秒における加速度応答が大きく、木造住宅の被害が大きかった。平成20年の岩手・宮城内陸地震(最大深度6強)ではこの地震動周期が小さかったため、震度に比べ建物被害が小さかった。

③被害を受けた建物の地盤が軟弱地盤であった可能性

住宅の被害が多く見られた益城町の地域は河川が近くにあり、軟弱地盤相当であった可能性が指摘されている。軟弱地盤の場合、想定以上の揺れによって耐力が不足し、倒壊に至ったと考えられる。

④設計、施工上の配慮不足

1.柱や壁の上下階での直下率が低い(直下率:上階の壁・柱に、下階の壁・柱が存在する割合)

直下率は建築基準法では規定されていないが、直下率が低い建物が地震を受けた場合、より大きな負担が、床や梁にかかってしまい、倒壊の危険性が増す

2.筋交の向きが偏っている

筋交の向きは、通常異なる向きの筋交が対になるように設計するが、熊本地震の倒壊建物では、向きが偏っている建物が見られた。このような状態では、地震の向きによっては、設計上の耐震性が発揮できず、大きな被害を受ける可能性がある

3.耐震要素が適切に施工されていない

個別の倒壊物件の分析では次のような状況が見られた

- ・筋交端部の金物の取り付け不良
- ・筋交に切欠きがあった(リフォーム現場でも時折見受けます)

これを読むと、熊本地震が大規模な地震が複数回起きると言う、これまでに例が無い地震であり、建物に被害を及ぼす揺れであったことがわかります。しかしながら、現地を視察してみると、倒壊している地区の中でも被害は受けているものの、倒壊に至っていない木造建築も多く見受けられました。改めて、耐震のみならず、地震から命を守るための情報提供をしっかりと行ってきたいと思います。(啓)